

特 116

217

私立  
日本大學著述

法制經濟要義 附錄

東京光風館藏版



始



特 116  
217

# 法制經濟要義 附錄

## 目次

一 皇室典範制定御告文 帝國憲法	一頁
二 帝國憲法發布勅語	一
三 帝國憲法	一
四 皇室典範	五
五 公式令	八
六 軍令ニ關スル件	一〇
七 國籍法(抄)	一〇
八 貴族院令(抄)	一一
九 衆議院議員選舉法(抄)	一二
一〇 議院法(抄)	一六

二 內閣官制(抄)	一九
三 樞密院官制(抄)	一九
三 各省官制通則(抄)	二〇
四 地方官官制(抄)	二一
三 治安維持法	二一
六 陪審法	二二
七 少年法	二二
八 警察犯處罰令	二二
九 工場法(抄)	二二
三〇 銀行貸付金利表	三二
三二 外國貿易輸出入物品總價額表	三二
三三 貯金積算表	三三

大正  
15. 3. 17  
內交

三 大正十四年度豫算概要……………三三

四 國家の歳入歳出表……………三四

五 國債表……………三五

六 公債證書・株券・債券・爲替手形・約束手……………一〇

七 形・小切手……………卷末

八 公文……………八

九 皇室典範……………九

一〇 帝國憲法……………一〇

一一 皇室及我が……………一〇

一二 皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕……………一〇

一三 皇考ノ神祇ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣……………一〇

一四 皇宗及……………一〇

一五 朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣……………一〇

一六 榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及……………一〇

一七 將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス……………一〇

一八 皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭……………一〇

一九 示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以……………一〇

二〇 テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々……………一〇

二一 國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進……………一〇

二二 スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此……………一〇

二三 レ皆……………一〇

二四 皇祖……………一〇

二五 皇朕ト謹ミ畏ミ……………一〇

二六 皇祖……………一〇

二七 皇宗ノ神靈ニ語ケ白サケ皇朕レ天壤無窮ノ宏……………一〇

二八 朕ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ……………一〇

二九 敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進退ニ……………一〇

三〇 膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク……………一〇

三一 皇祖……………一〇

三二 皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭……………一〇

三三 示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以……………一〇

三四 テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々……………一〇

三五 國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進……………一〇

三六 スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此……………一〇

三七 レ皆……………一〇

三八 皇祖……………一〇

三九 皇朕ト謹ミ畏ミ……………一〇

四〇 皇祖……………一〇

四一 皇宗ノ神靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕……………一〇

四二 皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕……………一〇

四三 皇考ノ神祇ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣……………一〇

四四 皇宗及……………一〇

四五 朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣……………一〇

四六 榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及……………一〇

四七 將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス……………一〇

# 法制經濟要義 附錄

## 一 皇室典範 制定御告文

告文

皇朕ト謹ミ畏ミ  
皇祖  
皇宗ノ神靈ニ語ケ白サケ皇朕レ天壤無窮ノ宏  
朕ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ  
敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進退ニ  
膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク  
皇祖  
皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭  
示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以  
テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々  
國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進  
スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此  
レ皆  
皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述  
スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ  
舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ  
皇祖  
皇宗及我が  
皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕  
レ仰テ  
皇祖  
皇宗及  
皇考ノ神祇ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣  
民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコ  
トヲ誓フ庶幾クハ  
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

## 二 憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣  
榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及  
將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

## 三 帝國憲法

朕祖宗ノ遺訓ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕  
カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈  
養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ慶福ヲ  
増進シ其ノ德能ヲ發達セシムコトヲ願  
ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進退ヲ扶

持セムコトヲ欲ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シテニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ誓ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ安全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效ナラシムルノ期トスヘシ將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御蓋

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵 黑田清隆  
 樞密院議長 伯爵 伊藤博文  
 外務大臣 伯爵 大隈重信  
 海軍大臣 伯爵 西郷從道  
 農商務大臣 伯爵 井上馨  
 司法大臣 伯爵 山田顯義  
 大藏大臣 伯爵 松方正義  
 陸軍大臣 伯爵 大山久  
 文部大臣 伯爵 森有禮  
 逓信大臣 伯爵 板本武揚

### 大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇太子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避ケタル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安全秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法及他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及效力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁ニ問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ享ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ

公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ教養ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨ケルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ從屬セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勳任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩院院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩院院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩院院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得

第四十條 兩院院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ



第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラサルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セザリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫太孫妃親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇太孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承タルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王ヲタル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ關署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國籍ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ降シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニヨリ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訴訟ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ出願ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族遺產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長ヲラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇太子皇孫子又ハ他ノ繼承タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

第四條 特種ヲ制セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ

前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條 第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ

第六條 皇族ノ臣籍ニ入りタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス

第七條 皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規程ハ此ノ典範ニ定ムタルモノ、外別ニ之ヲ定ム

皇族トハ凡トニ涉ル事項ニシテ各々適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ規定ニ依ル

### 皇室典範增補

(明治四十年二月十一日)

第一條 王ハ勅旨又ハ請願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ

第二條 王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得

第三條 前二條ニ依リ臣籍ニ入りタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス

### 皇室典範增補

(大正七年十一月二十八日)

皇族女子ハ王族又ハ公族ニ嫁スルコトヲ得

### 五 公式令

(明治四十年二月一日勅令第六號)

第一條 皇室ノ大事ヲ宣讀シ及大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣讀スルハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除ク外詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御憲ヲ鈐シ其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ内閣總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス其ノ大權ノ施行ニ關スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣ト俱ニ副署ス

第二條 文書ニ依リ發スル勅旨ニシテ宣讀セサルモノハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除ク外勅書ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御憲ヲ鈐シ其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第三條 帝國憲法ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢及帝國憲法第七十三條ニ依リ帝國議會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御憲ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ他ノ國務各大臣ト俱ニ副署ス

第四條 皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御憲ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第五條 皇室典範ニ基ツク諸規則宮内官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經タル規程ニシテ發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御憲ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス國務大臣ノ職務ニ關連スル皇室令ノ上諭ニハ内閣總理大臣又ハ内閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

皇族會議及樞密顧問又ハ其ノ一方ノ諮詢ヲ經タル皇室令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第六條 法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御憲ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル法律ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第七條 勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御憲ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル勅令及貴族院ノ諮詢又ハ議決ヲ經タル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載シ帝國憲法第八條第一項又ハ第七十條第一項ニ依リ發スル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

帝國議會ニ於テ帝國憲法第八條第一項ノ勅令ヲ承諾セサル場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スル勅令ノ上諭ニハ同條第二項ニ依リ行フ記載ス

第八條 國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御憲ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第九條 豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御憲ヲ鈐シ内閣總理大臣

年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第十條 閣令ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

省令ニハ各省大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

宮内省令ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

第十一條 皇室令、勅令、閣令及省令ハ別段ノ施行時期アル場合ノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス

第十二條 前數條ノ公文ヲ公布スルハ官報ヲ以テス

第十三條 國書其ノ他外交上ノ親書、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官吏委任狀、名譽領事委任狀及外國領事認可狀ニハ親署ノ後御憲ヲ鈐シ主任ノ國務大臣之ニ副署ス

外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ内閣總理大臣之ニ副署ス

第十四條 親任式ヲ以テ任スル官ノ官記ニハ親署ノ後御憲ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

内閣總理大臣ヲ任スル官記ニハ他ノ國務大

臣又ハ内大臣、宮内大臣ヲ任スルノ官記ニハ内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス  
前二項ニ依ルモノノ外勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス  
奏任官ノ官記ニハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮内官ニ付テハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス  
第十五條 親任式ヲ以テ任シタル官ヲ免スルノ辭令書ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ於テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス  
内閣總理大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ他ノ國務大臣又ハ内大臣、宮内大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス  
前二項ニ依ルモノノ外勅任官ヲ免スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス  
奏任官ヲ免スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十六條 爵位ニハ親著ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス  
第十七條 一位ノ位記ニハ親著ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス  
二位以下四位以上ノ位記ニハ御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス五位以下ノ位記ニハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス  
第十八條 爵位ノ返上ヲ命シ又ハ允許スルノ辭令書ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス  
第十九條 勳二等功三級以上ノ勳記ニハ親著ノ後御璽ヲ鈐シ勳三等功四級以下ノ勳記ニハ國璽ヲ鈐シ内閣總理大臣印ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム  
勳記ニハ勳章ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名ス  
第二十條 記章ノ證狀並外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ニハ内閣總理大臣印ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ之ニ署名セシム  
證狀ニハ其ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名セシム

### 六 軍令ニ關スル件

(明治四十年九月十二日 軍令第一一號)

周書記官之ニ署名ス  
第二十一條 勳章及記章並外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ヲ擬奪スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣印ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム  
朕軍令ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス  
第一條 陸海軍ノ統帥ニ關シ勅定ヲ經タル規程ハ之ヲ軍令トス  
第二條 軍令ニシテ公示ヲ要スルモノニハ上諭ヲ附シ親著ノ後御璽ヲ鈐シ主任ノ陸軍大臣海軍大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス  
第三條 軍令ノ公示ハ官報ヲ以テス  
第四條 軍令ハ別段ノ施行時期ヲ定ムルモノノ外直ニ之ヲ施行ス

### 七 國籍法 (抄)

(明治三十二年三月十六日 法律第六十六號)

第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父トキハ之ヲ適用セス  
第十五條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其國籍ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス  
前項ノ規定ハ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

### 八 貴族院令 (抄)

(明治二十二年二月十一日 勅令第十一號)

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス  
一 皇族  
二 公侯爵  
三 伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者  
四 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者  
五 帝國學士院ノ互選ニ由リ勅任セラレタル者  
六 北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工礦商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人又ハ二人ヲ互選シテ勅任セラレタル者  
第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議

カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ  
第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス  
前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニアラス  
第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス  
第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ此子ハ之ヲ日本人トス  
第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス  
一 日本人ノ妻ト爲リタルトキ  
二 日本人ノ入夫ト爲リタルトキ  
三 日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ  
四 日本人ノ養子ト爲リタルトキ  
五 歸化ヲ爲シタルトキ  
第六條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 本國法ニ依リテ未成年者タルコト  
二 外國人ノ妻ニ非サルコト  
三 父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本ハナルコト  
四 父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト  
第七條 外國人ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得  
内務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スルモノニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス  
一 引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト  
二 滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト  
三 品行端正ナルコト  
四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト  
五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト  
第八條 外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス  
第十三條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス  
前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アル



席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿三十歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ  
前項ノ議員ハ勅許ヲ得テ議員タルコトヲ辭スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ議員タルコトヲ辭シタル者ハ勅命ニ依リ再ヒ議員トナルコトヲ得

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿三十歳ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ定數ハ伯爵十八人子爵六十六人男爵六十六人トス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勳任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス

第一項ノ議員身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ貴族院ニ於テ其ノ旨ヲ議決シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ前項ノ議決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第五條ノ二 滿三十歳以上ノ男子ニシテ帝國

學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勳任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 滿三十歳以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勳任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以内トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選舉毎ニ人口ニ應ジ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

九 衆議院議員選舉法(抄)

(大正十四年五月五日法律第四十七號)

第一章 選舉ニ關スル區域  
第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

第三條 開票區ハ都市ノ區域ニ依ル

第四條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第五條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選舉權ヲ有ス

帝國臣民タル男子ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第六條 左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 禁治產者及準禁治產者

二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者

三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ

犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條 華族ノ戸主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未ダ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第八條 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

第九條 在職ノ官內官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法院判官、關東廳法院判官、南洋廳判事、檢察、朝鮮總督府檢察、臺灣總督府法院檢察官、關東廳法院檢察官、南洋廳檢察、陸軍法務官、海軍法務官、行政

裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス  
第十條 官吏及待遇官吏ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外在職中議員ト相兼スルコトヲ得ス  
一 國務大臣  
二 內閣書記官長  
三 法制局長官  
四 各省政務次官  
五 各省參事官  
六 內閣總理大臣秘書官  
七 各省秘書官  
第十一條 北海道會議員及府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス  
第三章 選舉人名簿  
第十四條 選舉、投票及投票所  
第十八條 總選舉ハ議員ノ任期終リタル日ノ翌日之ヲ行フヲ常トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ議員ノ任期終リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ行フコトヲ妨ケス  
議會開會中又ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ總選舉ハ議會閉會ノ日ヨリ二十六日以後三十日以内ニ之ヲ行フ

衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選舉ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ  
總選舉ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム少クトモ二十五日前ニ之ヲ公布ス  
第十九條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ  
投票ハ一人一票ニ限ル  
第二十五條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ  
投票管理若ハ投票ヲ爲サントスル選舉人ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス  
第二十七條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ  
投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス  
第二十八條 投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス  
第三十九條 何人ト雖選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第五章 開票及開票所

第五十一條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定スヘシ

第五十二條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉権ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ
- 七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ
- 八 衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第八號ノ規定ハ第七十五條又ハ第七十九條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十三條 投票ハ有無無効ヲ區別シ議員ノ任期間開票管理者ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十條 議員候補者及當選人ノ姓名ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十一條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十二條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十三條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十四條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十五條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十六條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十七條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十八條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第六十九條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十一條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十二條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十三條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十四條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十五條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十六條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十七條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十八條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第七十九條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十一條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十二條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十三條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十四條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十五條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十六條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十七條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十八條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第八十九條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第九十條 議員候補者タル者ハ選舉ノ期日以前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通告シ且地方長官ニ報告スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選舉長ハ選舉ノ期日ヨリ五日以内ニ選舉會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選ハト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第七十三條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉長ニ届出ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

選舉長第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十四條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十五條 左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選舉ヲ行フコトヲナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキヲ除クノ外地方長官

ハ選舉ノ期日ヲ定メ少クテ十四日前ニ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ同一人ニ關シ左ニ掲クル其ノ他ノ事由ニ依リ又ハ第七十九條第六項ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 當選人ナキトキ又ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ

二 當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ

三 當選人第七十條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四 第八十一條又ハ第八十三條ノ規定ニ依リ訴訟ノ結果當選人ナキニ至リ又ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ

五 當選人第八十四條ノ規定ニ依リ訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルトキ

六 當選人第八十六條ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキ

第九章ノ規定ニ依リ訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依リ選舉ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ

第一項ノ選舉ノ期日ハ第九章ノ規定ニ依リ訴訟ノ出訴期間満了ノ日、其ノ出訴アリタ

ル場合ニ於テハ地方長官第八十六條第一項ノ規定ニ依リ訴訟繫屬セサルニ至リタル旨ノ大審院長ノ通知ヲ受ケタル日又ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日ヲ超エルコトヲ得ス第一項各號ノ一ニ該當スル事由議員ノ任期ノ終ル前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス

第七十六條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ告示シ且之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第八章 議員ノ任期及補闕

第七十八條 議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ期日ヨリ之ヲ起算ス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十九條 議員ニ開員ヲ生スルモ其ノ開員ノ數同一選舉區ニ於テ二人ニ達スル迄ハ補闕選舉ハ之ヲ行ハス

第八十條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九章 訴訟

第十條 選舉運動

第八十八條 議員候補者ハ選舉事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議員候補者自ら選舉事務長

ト爲リ又ハ推薦届出者(推薦届出者数人アルトキハ其ノ代表者)議員候補者ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ヲ選任シ若ハ自ら選舉事務長ト爲ルコトヲ妨ケス

議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル者ハ前項但書ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

議員候補者ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉事務長ヲ解任スルコトヲ得選舉事務長ヲ選任シタル推薦届出者ニ於テ議員候補者ノ承諾ヲ得タルトキ亦同シ

選舉事務長ハ文書ヲ以テ議員候補者及選任者ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得選舉事務長ノ選任者(自ら選舉事務長ト爲リタル者ヲ含ム以下之ニ同シ)ハ直ニ其ノ旨ヲ選舉區内警察官署ノ一ニ届出ツヘシ

選舉事務長ニ異動アリタルトキハ前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者直ニ其ノ届出ヲ爲シタル警察官署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ハ前項ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ之ヲ罷メタルトキ亦同シ

第九十條 選舉事務所議員ハ候補者一人ニ付七箇所ヲ超ユルコトヲ得ス

選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選舉事務所ハ前項ニ掲クル數ヲ超ユル範圍内ニ於テ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ス

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)前項ノ規定ニ依リ選舉事務所ノ數ヲ定メタル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ之ヲ告示スヘシ

第十一章 選舉運動ノ費用

第一百一條 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者、選舉委員又ハ選舉事務員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得ケス

議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス

第一百二條 選舉運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名

簿確定ノ日ニ於テ之ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額

二 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル額

三 第三十七條ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準シテ算出シタル額但シ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ告示スヘシ

第十二章 罰則

第十三章 補則

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

一〇 議院法(抄)

衆議院議員選舉區並議員數

東京府	七區	三二	群馬縣	二區	九	山梨縣	一區	五	山形縣	二區	八	廣島縣	三區	一三	大分縣	二區	七
京都府	三區	一一	千葉縣	三區	一一	滋賀縣	一區	五	秋田縣	二區	八	山口縣	二區	九	佐賀縣	二區	六
大阪府	六區	二二	茨城縣	三區	一一	岐阜縣	三區	九	福井縣	一區	五	和歌山縣	二區	六	熊本縣	二區	一
神奈川縣	三區	一一	栃木縣	二區	九	長野縣	四區	一三	石川縣	二區	六	德島縣	二區	六	宮崎縣	一區	五
兵庫縣	五區	一九	奈良縣	一區	五	宮城縣	二區	八	富山縣	二區	六	香川縣	二區	六	鹿兒島縣	三區	五
愛知縣	二區	九	三重縣	一區	五	福島縣	二區	八	鳥取縣	一區	六	愛媛縣	二區	六	沖繩縣	一區	二
新潟縣	四區	一五	愛知縣	二區	九	岩手縣	三區	一一	島根縣	一區	四	高知縣	三區	九	北海道	一區	五
埼玉縣	三區	一一	靜岡縣	三區	一七	青森縣	二區	七	岡山縣	二區	六	福岡縣	二區	六	合計	一一二區	二〇
																	四六六

(明治二十二年二月十一日)

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルルマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ

二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サントスルトキハ三十人以上ノ贊成アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若シ答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動

議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

### 一一 內閣官制 (抄)

(明治二十二年十二月 勅令第三百三十五號)

一 內閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス

一 內閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ職務ヲ奏宜シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス

一 內閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得

一 內閣總理大臣ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ命令ヲ發スルコトヲ得

一 內閣總理大臣ハ所管ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官及府縣知事ヲ指揮監督ス若シ其ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

一 左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ

一 法律案及豫算決算案

二 外國條約及重要ナル國際條件

三 官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令

四 諸省ノ間主管權限ノ爭議

五 天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願

六 豫算外ノ支出

七 勅任官及地方長官ノ任命及進退

其ノ他各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事務稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ

一 主任大臣ハ其ノ所見ニヨリ何等ノ件ヲ問ハス內閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

一 事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ內閣ニ下付セラレルノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

一 內閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理ス

一 各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命令ヲ承ケ其ノ事務ヲ管理スヘシ

一 各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ內閣員ニ列セシメラルルコトアルヘシ

### 一二 樞密院官制 (抄)

(明治二十一年四月三十日 勅令第二百二十二號)

樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

一 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十四人書記官長一人書記官三人ヲ以テ組織ス

一人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

職掌

一 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス

一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二 憲法ノ條規又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義

三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ任命及其他規則ノ規定アル勅令

四 列國交渉ノ條約及約束

五 樞密院ノ官制及事務規定ノ改正ニ關スル事項

六 前諸項ニ掲ケルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項

一 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナ

### 一三 各省官制通則(抄)

(明治二十六年十月 勅令第百二十二號)

- 一 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、逓信及鐵道ノ各省ニ適用ス
- 二 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ヌ主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム
- 三 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制度廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ
- 四 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得
- 五 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得
- 六 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯ス

- モノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
- 一 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
- 二 地方官廳委任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス
- 三 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ敘位敘勳ヲ上奏ス
- 四 地方官廳官吏ノ敘位敘勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル
- 五 各省ニ大臣官房ヲ置ク
- 六 大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 機密ニ屬スル事項
  - 二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
  - 三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
  - 四 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
  - 五 統計報告ノ調製ニ關スル事項
  - 六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
  - 七 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項
  - 八 會計ノ監査ニ關スル事項
  - 九 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

- 十 其ノ他各官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項
- 各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ハ各局ニ於テ又ハ特ニ局ヲ設ケテ之ヲ處理セシムルコトヲ得
- 一 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム
- 二 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 三 陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム
- 四 各省ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 一 政務次官
  - 二 秘書官
  - 三 參事
  - 四 參事官
  - 五 參事官
  - 六 參事官
  - 七 參事官
  - 八 參事官
  - 九 參事官
  - 十 參事官
- 一 各省政務次官ハ一人勅任トス
- 一 政務次官ハ大臣ヲ佐ケ政務ニ參畫シ帝國議會トノ交渉事項ヲ掌理ス
- 一 各省次官ハ一人勅任トス
- 一 次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス
- 一 各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

### 一四 地方官官制(抄)

(大正二年六月 勅令第百五十一號)

- 一 秘書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク
- 一 書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク
- 一 各省專任秘書官ハ一人トス
- 一 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス
- 一 陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル
- 一 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

- 一 知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス
- 一 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得
- 一 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得但シ東京府知事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 一 知事ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ
- 一 知事ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ニ付テハ之ヲ行フ

- 一 知事ハ郡長、島司又ハ警察署長ノ處分又ハ命令ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分又ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得
- 一 知事ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ市長ヲ指揮監督シ其ノ處分ニ付テハ前項ノ例ニ依ル
- 一 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設ケルコトヲ得
- 一 知事事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ書記官其ノ職務ヲ代理ス
- 一 知事及書記官ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム
- 一 知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
- 一 知事ハ其ノ職權ニ關スル事務ノ一部ヲ郡長、島司、警察署長又ハ市長ニ委任スルコトヲ得
- 一 各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
  - 一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
  - 二 文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項
  - 三 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項
  - 四 褒賞ニ關スル事項
- 一 各府縣ニ部ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト

ト左ノ如シ

- 一 議員選舉ニ關スル事項
  - 二 府縣行政及市町村其ノ他公共團體ノ行政監督ニ關スル事項
  - 三 賑恤救済ニ關スル事項
  - 四 土木ニ關スル事項
  - 五 會計ニ關スル事項
  - 六 教育ニ關スル事項
  - 七 社寺及宗教ニ關スル事項
  - 八 農工内森林水産ニ關スル事項
  - 九 小作爭議調停ニ關スル事項
  - 十 度量衡ニ關スル事項
  - 十一 兵事ニ關スル事項
  - 十二 他ノ主管ニ關セザル事項
- 東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項  
警察部

- 一 事務ヲ掌理ス
- 一 部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
- 一 警察部長ハ警察及衛生事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケテ地方警視、警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス
- 一 各府縣ニ視學官ヲ置キ地方事務官ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 視學官ハ内務部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ觀察其ノ他教育ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 東京府ヲ除クノ外各府縣ニ工場監督官ヲ置クコトヲ得
- 一 工場監督ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行並ニ鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業労働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 東京府ヲ除クノ外各府縣ニ建築監督官ヲ置クコトヲ得
- 一 建築監督官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 地方事務官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

- 一 地方警視ハ警察部ニ屬シ又ハ内務大臣ノ指定シタル警察署ノ署長ト爲リ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス
- 一 警察部ニ屬スル警視ハ上官ノ指揮ヲ受ケ警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス
- 一 大阪府ニ監察官一人ヲ置キ警察部ニ屬スル警視ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 監察官ハ上官ノ命ヲ承ケ警察事務ノ實況ヲ監察ス
- 一 小作官ハ内務部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 各部ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ知事ノ指定メ内務大臣ニ報告スヘシ
- 一 地方技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 一 視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ觀察其ノ他教育ニ關スル職務ニ從事ス
- 一 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 一 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡查ヲ指揮監督ス
- 一 各府縣ニ工場監督官補ヲ置ク
- 一 工場監督官補ハ屬又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ受ケ工場法施行並ニ鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業労働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

- 一 各府縣ニ建築監督官補ヲ置クコトヲ得
- 一 建築監督官補ハ屬又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ニ從事ス
- 一 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 一 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通譯ニ從事ス
- 一 警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
- 一 各都市ニ警察署ヲ置ク但シ内務大臣ハ地方ノ必要ニ應ジ別ニ區域ヲ定メテ警察署ヲ置クコトヲ得
- 一 知事必要アリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得
- 一 警察署長ハ地方警視ヲ以テ充ツル場合ヲ除クノ外警部ヲ以テ之ニ充テ警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ警察分署長ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 一 警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部内ノ警察及衛生事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
- 一 各府縣ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス
- 一 巡查ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

- 一 各郡ニ左ノ職員ヲ置ク
- 一 郡長
- 一 郡書記
- 一 郡視學
- 一 郡長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
- 一 郡長ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス
- 一 郡長ハ町村長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得
- 一 郡長ハ部下ノ判任官ノ進退ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 一 郡長ハ法律命令ニ依リ又ハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得
- 一 郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス
- 一 郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
- 一 郡書記ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事ノ指定ス
- 一 郡書記ハ郡長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

- 一 郡視學ハ郡長ノ指揮ヲ承ケ學事ノ觀察其ノ他教育ニ關スル職務ニ從事ス
- 一 知事ハ須要ニ依リ郡ニ技師ヲ置クコトヲ得
- 一 技師ハ判任トス郡長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 一 勅令ヲ以テ指定スル島地ニ島地ヲ置ク知事必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ島地出張所ヲ置クコトヲ得
- 一 各島地ニ左ノ職員ヲ置ク
- 一 島司
- 一 島書記
- 一 島視學
- 一 島司ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
- 一 島司ハ法律命令ニ依リ又ハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島令ヲ發スルコトヲ得
- 一 島司ハ部下ノ判任官ノ進退ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 一 島司ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス
- 一 島司ハ町村長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益

### 一五 治安維持法

(大正十四年四月二十一日)  
法律第四十六號

益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

一 島司事故アルトキハ上席島廳書記其ノ職務ヲ代理ス

一 島司ハ島廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

一 島廳出張所長ハ島廳書記ヲ以テ之ニ充ツムル所ニ依リ出張所主管ノ事務ヲ處理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

一 島廳書記ノ定員ハ其ノ府縣屬ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム

一 島廳書記ハ島司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

一 島廳視學ハ當分ノ内島廳書記ヲシテ之ヲ兼ネシム島司ノ指揮ヲ承ケ學事ノ觀察其ノ他教育ニ關スル庶務ニ從事ス

一 知事ハ須要ニ依リ島廳ニ技手ヲ置クコトヲ得

技手ハ判任トス島司ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

一 本令中市長トアルハ市制第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區長町村長トアルモノハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

第一條 國體ヲ變革シ又ハ私有財產制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條 前條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的ル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ暴行其ノ他生命身體又ハ財產ニ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條 第一條第一項及第三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財產上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其要求若ハ約束

### 一六 陪審法(抄)

(大正十二年四月十八日)  
法律第五十號

ヲ爲シタル者亦同シ

第六條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第七條 本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則

大正十二年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

第一條 裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判例ヲ爲スコトヲ得

第二條 死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條 長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第四條 左ニ掲クル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付セス

一 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪

二 刑法第二編第一章乃至第四章及第八

### 章ノ罪

三 軍機保護法陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪

四 法令ニ依リテ行フ公選ニ關シ犯シタル罪

第六條 被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第七條 被告人公判 ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

公判ニ牽屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第十一條 上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第十二條 陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一 帝國臣民タル男子ニシテ三十歳以上タルコト

二 引續キ二年以上同一市町村内ニ住居スルコト

三 引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト

四 讀ミ書キヲ爲シ得ルコト

前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル

第二十七條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者四分ノ三呼出ニ應シタル後ニ非サレハ其ノ年内再ヒ陪審員ニ選定セラルルコトナシ

第二十九條 陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス

第三十條 陪審ハ檢事被告事件ヲ陳述スル

時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス

第六十條 陪審構成ノ手續ハ判事檢事裁判所書記被告人辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十一條 前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

出頭シタル陪審員二十四人ニ達セサルトキハ裁判所長ハ之ヲ補充スル爲メ裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審員ヲ選定シ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十五條 裁判所長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

裁判所長ハ氏名票ヲ一稟宛抽籤函ヨリ抽出シ之ヲ讀上クヘシ

裁判所長氏名ヲ讀上ケタルトキハ檢事及被告人ハ承認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ

順序ハ檢事ヲ先ニシ被告入ヲ後ニス  
 忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ス  
 次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出スル迄ニ陳述  
 ヲ爲ササルトキハ承認ノ陳述ヲ爲シタルモ  
 ノト看做ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言ス  
 ル迄陳述ヲ爲サ、ルトキ亦同シ  
 陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取  
 消スコトヲ得ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣  
 言スル迄陳述ヲ爲サ、ルトキ亦同シ  
 第六十七條 陪審ヲ構成スヘキ陪審員ハ初ニ  
 當籤シタル十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審  
 員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ  
 第六十九條 裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前  
 陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲシ  
 テ宣誓ヲ爲サシムヘシ  
 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ宣誓書ニ  
 ハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘ  
 キコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ  
 裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲ  
 シテ之ニ署名捺印セシムヘシ  
 第七十六條 證據調終リタル後檢事、被告人  
 及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上  
 及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ  
 辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニス

ル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得  
 ス  
 公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ採用スルコ  
 トヲ得ス  
 被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會  
 ヲ與フヘシ  
 第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審  
 ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問  
 題ト爲ルヘキ事實證據ノ要領ヲ説示シ犯  
 罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申  
 スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責  
 ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス  
 第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區  
 別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラズト答ヘ得ヘ  
 キ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ  
 有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス  
 補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル  
 犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要ア  
 リト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス  
 犯罪ノ成立ヲ阻却スル理由ト爲ルヘキ事實  
 ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルト  
 キハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘ  
 シ

第八十條 陪審員檢事被告人及辯護人ハ問  
 ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ  
 爲スヘシ  
 第八十一條 裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ  
 陪審ニ交付スヘシ  
 陪審員ハ問書ノ原本ノ交付ヲ請求スルコト  
 ヲ得  
 第八十二條 裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪  
 審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ  
 裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證  
 據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得  
 第九十一條 犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪  
 審員ノ過半数ノ意見ニ依ルコトヲ要ス  
 犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ  
 過半数ニ達セサルトキハ之ヲ否定シタルモ  
 ノトス  
 第九十五條 裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ム  
 ルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハ  
 ス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ  
 付スルコトヲ得  
 第一百條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷  
 ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲  
 スコトヲ得ス

第一百二條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判  
 斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院  
 ニ上告ヲ爲スコトヲ得  
 第一百五條 上告裁判所原判決ヲ破毀スル場  
 合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ら裁  
 判ヲ爲ス場合ヲ除クノ外事件ヲ原裁判所ニ  
 差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所  
 ニ移送スヘシ  
 破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結  
 果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ  
 其ノ效力ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ事件ノ差  
 戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ  
 手續ノミヲ爲スヘシ

### 一七 少年法 (抄)

(大正十一年四月十七日 法律第四十二號)

第一章 通則  
 第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ  
 滿タサル者ヲ謂フ  
 第二條 少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法  
 ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル  
 第三條 本法ハ第七條、第八條、第十條、乃  
 至第十四條ノ規定ヲ除クノ外陸軍刑法第八

條、第九條及海軍刑法第八條第九條ニ掲ケ  
 タル者ニ之ヲ適用セス  
 第二章 保護處分  
 第四條 刑罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲シ又ハ刑  
 罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲ス虞アル少年ニ對  
 シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
 一 訓誡ヲ加フルコト  
 二 學校長ノ訓誡ニ委スルコト  
 三 書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムル  
 コト  
 四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト  
 五 寺院、教育、保護團體又ハ適當ナル  
 者ニ委託スルコト  
 六 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト  
 七 感化院ニ送致スルコト  
 八 矯正院ニ送致スルコト  
 九 病院ニ送致又ハ委託スルコト  
 前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコト  
 ヲ得  
 第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分  
 ハ二十歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ  
 其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若  
 ハ變更スルコトヲ得  
 第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受

ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶致又ハ假  
 出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス  
 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第  
 一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ  
 處分ヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ  
 第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ  
 繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス  
 第三章 刑事處分  
 第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ  
 死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以  
 テ處斷スヘキトキハ十年以上十五年以下ニ  
 於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス  
 第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲  
 役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑  
 ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ首  
 渡ス但シ短期五年ヲ超ニル刑ヲ以テ處斷ス  
 ヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス  
 前項ノ規定ニ依リ首渡スヘキ刑ノ短期ハ五  
 年長期ハ十年ヲ超ニルコトヲ得ス  
 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前









Table with 6 columns: 第六項 營業稅, 第七項 兌換銀行券發行稅, 第八項 酒稅, 第九項 醬油稅, 第十項 砂糖消費稅, 第十一項 織物消費稅, 第十二項 取引所稅, 第十三項 鹽稅, 第十四項 順稅, 第十五項 印紙收入, 第十六項 官業及官有財產收入, 第十七項 雜收入, 第十八項 預金特別會計, 第十九項 會計特別會計, 第二十項 教育改善及農村振興基金特別會計, 合計.

Table with 6 columns: 特別會計, 資金融入, 公債金, 保險會社納付金, 特別會計殘金, 前年度剩餘金, 歲入總計, 歲出經常部, 第一款 皇室費, 外務省所管, 內務省所管, 大藏省所管, 陸軍省所管, 海軍省所管, 司法部所管, 文部省所管, 農林省所管, 商工省所管, 逓信省所管, 合計.

Table with 6 columns: 外務省所管, 內務省所管, 大藏省所管, 陸軍省所管, 海軍省所管, 司法部所管, 文部省所管, 農林省所管, 商工省所管, 逓信省所管, 合計, 歲出總計.

二四 國家の歲入歳出表

Table with 3 columns: 年度, 内國債, 外國債. Rows for 同 八年度, 同 九年度, 同 十年度, 同 十一年度, 同 十一年度.

Table with 3 columns: 年度, 内國債, 外國債. Rows for 同 十二年度, 同 十三年度, 同 十四年度, 同 十四年度.

二五 國債表 (三月三十一日現在)

Table with 4 columns: 年度, 内國債, 外國債, 總計. Rows for 明治二十六年, 同 三十七年, 同 三十八年, 同 三十九年, 同 四十年, 同 四十一年, 同 四十二年, 同 四十三年, 大正二年, 同 三年, 同 四年, 同 五年, 同 六年, 同 七年, 同 八年, 同 九年, 同 十年, 同 十一年, 同 十二年.

(備考) 本表ハ大藏省證券及諸借入金ヲ含マス

附

錄

終

附  
錄

三六

終

